

原著

# 美容医療（美容整形およびプチ整形）に対する態度 ——経験の有無や興味の種類による比較——

鈴木 公啓<sup>1)</sup>

Attitudes Towards Cosmetic Surgery in Japan Associated With  
Personal Experience and the Level of Interest

Tomohiro Suzuki

## 要 旨

本研究は、現在の日本における美容医療（美容整形・プチ整形）の経験や興味の実態を確認すると同時に、美容医療に関わる態度、イメージ、そして心理的特徴などについても明らかにすることを試みた。美容医療の経験のある者は少ないが、興味を有する者は多いことが確認された。そして、美容医療の経験は、他の身体変工の経験と関連があること、興味/経験があるほど社会で美容医療が受容されていると考えていること、プチ整形は美容整形に比べてコンプレックス解消というイメージが無いこと、また、興味/経験があるほど、周囲の人が美容医療を経験したと考えていることなどが明らかとなった。さらに、興味/経験によって、心理的特徴が異なっていた。そこからは、容姿への不満や装った姿こそが本当の姿であるという考えが、美容医療を受けることを推し進め、そして、施術を経験することによって、自己に満足し、新しい姿が自己像として定着していくプロセスが想定された。

キーワード：美容医療（美容整形・プチ整形）、受容、イメージ、社会的影響、心理的特徴

## 問 題

日常生活において、美容整形やプチ整形という言葉を目にすることは少なく無い。メディアを中心に、美容整形・プチ整形に関する広告、もしくは体験談などが呈示され、芸能人や知人の美容整形施術の噂などが人の口の上にもある。場合によっては、身近な人に施術経験がある者がいて、そのことについて会話をすることもあろう。

美容整形・プチ整形は、容姿を変えるために身体

に直接何かしらの加工を加えることであり、身体変工の1つということができる。また、広義の身体装飾に含まれる。美容整形は、正式には美容外科と称するが、美容整形や美容医療といった用語が用いられることも多い。国民生活センターは、「美容医療サービス」を医師による医療のうち「専ら美容の向上を目的として行われる医療サービス」を指すものとし、医療脱毛、脂肪吸引、豊胸手術、二重まぶた手術、包茎手術、審美歯科等が主な施術としている。高嶋（2017）は、「美容医療とは、美容を目的とし、かつ、身体に

1) 鈴木 公啓 東京未来大学こども心理学部

suzukirt\_@nifty.com

対する一定の危険を伴うサービス」とし、多種多様なものを含むものとしている。谷本（2008）は「美容整形」と「美容医療」という用語を使用し、「美容整形」はメスを使った手術、「美容医療」はメスを使わないでレーザー、投薬、注射などを用いたプチ整形とも呼ばれる施術であるとしている。

日常場面においては、美容医療よりも、美容整形やプチ整形という用語が用いられることが多い。一般には、メスを使うものを美容整形、そうでないものをプチ整形といたりもする。本論では、メスを使うものを「美容整形」、そうでないものを「プチ整形」、そしてその両者をあわせたものを「美容医療」とし、論を進める。

日本における美容医療の実態については、その内容が秘匿されやすいという特徴もあるため、十分には明確になっていない。しかし、国際美容外科学会（International Society of Aesthetic Plastic Surgery; ISAPS）による2016年の統計によると、日本の美容外科施術数は、アメリカとブラジルに次いで世界で第3位であり、その件数は1,137,976件である（ISAPS, 2017）。資料からは、外科的手術（美容整形に該当）の数では上位では無いが、非外科的手術（プチ整形に該当）の件数が多く、総合での順位の高さにつながっていることが読み取れる。これらについては、あくまでも、国際美容外科学会に報告された数であり、報告されていない数もあると考えられる。そのため、実際の施術数はそれよりも多いと想定される。なお、外科的手術では、まぶたの手術、鼻形成術、豊胸術の順に多く、非外科的手術では、ヒアルロン酸（の注射）、ボツリヌストキシン（の注射）、脱毛の順に多い。

国内でもいくつかの調査において、美容医療への経験や興味・関心について扱われ、現在の日本における実態の一端が明らかにされている<sup>1)</sup>。美容医療の経験割合については、以下のとおりである。大学生765名を対象とした谷本（2008）においては、経験割合が、美容整形が1.9%、プチ整形が4.0%（女性のみでは8.6%）であること、成人800を対象とし

た谷本（2012）においては、美容整形が1.0%、プチ整形が3.5%（女性のみでは6.8%）であること、そして、成人2000人を対象とした谷本（2014）においては、美容整形が1.9%、プチ整形が4.0%（どちらかを受けたのは5.1%）であることが報告されている。この他にも、ポーラ文化研究所（2012）により、首都圏居住の女性1500名（15歳～64歳）のうち、美容クリニックの経験割合は16.9%であることが報告されている。

また、美容医療についての興味については以下のとおりである。谷本（2008）においては、45.2%（女性のみで63.1%）が興味を有していること、谷本（2012）においては、美容整形をしたいと思ったことがあるのは13%であることが報告されている。また、谷本（2014）においては、美容医療を受けたい人は20.9%（女性のみで30.8%）と報告されている。ポーラ文化研究所（2012）においては、女性で美容クリニックでの施術を受けたいとした者が25.3%であることが報告されている。このように、未経験者の中にも、興味を有する者は少なく無い。

ISAPSの報告数、また、複数の実態調査による施術件数を考慮すると、美容医療は、現在の日本ではそれほど珍しいものではないといえるのかもしれない。メディアにあふれる美容医療の広告の多さなどを考えると、人々にとって比較的身近なものとして捉えられている可能性はある。

本論文では、現在の日本において実際にどのくらいの人々が美容医療を経験しているのか、興味や関心を有しているのかを確認すると同時に、美容医療に関わる態度、イメージ、そして心理的特徴などについても明らかにすることを試みる。Henderson-King & Henderson-King（2005）も述べているように、一般における美容医療についての態度の特徴などは、十分には明らかになっていない。しかし、このような状況において、日本における美容医療に対する態度などを検討することにより、美容医療という装いを、人々がこの社会の中でどのように受け止め、場合によっては採用し、社会に臨んでいるのか、

その一端を明らかにすることができるかと期待される。

## 方法

**対象** 日本全国に居住する10代後半から60代の男性10,401名、女性10,618名の計21,019名を対象とした(平均年齢40.1歳、 $SD=16.30$ )。なお、対象の年齢層と性別は基本的にはほぼ同数に割り付けて実施した。

**調査内容** 以下の内容について尋ねた。

**経験の有無** 美容整形およびプチ整形の経験について尋ねた。「経験がない」「経験がある」「回答したくない」から選択するように求めた。なお、他の身体変工との関連を検討するため、彫り物(和彫り)、タトゥー(洋彫り)、ピアスについても扱い、同様に尋ねた。

**興味** 美容整形およびプチ整形の経験が無い者に対し、興味の程度について尋ねた。「興味が無い」「興味はあるが、おこなうつもりは無い」「興味があり、機会があったらおこないたい」「近々おこなう予定がある」「答えたくない」から選択するように求めた。

**社会における受容の推測(受容推測)** 美容整形およびプチ整形が現在の日本社会でどのくらい一般的と思っているか尋ねた。「まったく一般的でない」「あまり一般的でない」「ある程度一般的である」「とても一般的である」から選択するように求めた。

これ以降の質問項目は、対象にランダムに割り振ったうえで回答を求めた。

**イメージ** 美容整形およびプチ整形のイメージについて尋ねた。「マイナスからゼロ(人並み)へ」または「ゼロ(人並み)からプラスへ」のどちらかを選択するように求めた。川添(2013)では、インタビューをとおして「美」ではなく「普通」が強調されていることが述べられている。しかし、谷本(2008)においては、従来、美容整形にはコンプレックスの解消という大義名分が必要であり、人並みになることを望み美容整形を受ける人が多かったが、現在は必ずしもそうではない可能性について言及されている。そこで、その点について検討することとした。

**周囲の人の経験数(他者経験推測)** 身近な人で美容整形およびプチ整形をおこなった人が何人ぐらいいるか(いると思うか)、「0人」「1~5人」「6~10人」「11~20人」「21人以上」から選択するように求めた。装いは、周囲の人の影響を受けることが知られている。そして、谷本(2017)により、女性において、美容医療の実施には同性友人や女性の家族の影響が大きく、女性同士のコミュニケーションが重要であることが指摘されている。少なくとも、男性・女性ともに、周囲の人の影響を受けている可能性は十分にある。そこで、その影響を確認するために、身近な人の経験について尋ねた。

**心理的特徴** 心理的特徴について、以下の内容について項目を設定し、回答を求めた。a) 自己の満足度：谷本(2008、2012、2014)により、美容医療を受ける理由として自己満足や自分が心地よくあるためであることが示唆されている。そこで、自己への満足と美容医療との関連を検討するため、「自分に満足している」「やる気に満ちている」「今の生活を幸せだと思う」の3項目について回答を求め、その平均値を自己の満足度の指標として用いた。b) 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求：賞賛獲得欲求・拒否回避欲求(菅原, 1986)は、装いと関連することが知られている(e.g., 鈴木, 2006、2012)。装いの1つである美容医療においても関連が認められるか検討するため、賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度(小島・太田・菅原, 2003)の一部を実施した。賞賛獲得欲求として「人と話すとき、できるだけ自分の存在をアピールしたい」「自分が注目されていないと、つい人の気を引きたくなる」「初対面の人にはまず自分の魅力を印象づけようとする」、拒否回避欲求として「場違いなことをして笑われないよう、いつも気を配る」「意見を言うとき、みんなに反対されないかと気になる」「不愉快な表情をされると、あわてて相手の機嫌をとる方だ」のそれぞれ3項目について回答を求め、その平均値を指標として用いた。c) 外見評価(自己)と外見評価(他者)：外見の魅力度の評価によって装い行動の理由が異なることが指摘さ



れている（谷本，2008）。外見評価と美容医療の関連を検討するため、自己による外見評価として「自分の外見を魅力的（美しい/かっこいい）と思うことがある」に、他者による外見評価として「周りの人から外見が魅力的（美しい/かっこいい）と言われることがある」に回答を求めた。d) 本当の姿観：北条（2015）により、美容医療をおこなった者には、化粧などで装った姿が本当の姿と認識され、それを保持するために美容医療に至るというプロセスがあることが指摘されている。谷本（2008）においても、経験者を対象としたインタビューにて、変化を否定するものの施術を受けた後が本来の自分であるという認識がなされていることが語られることを報告している。そこで、装いと本当の姿観に関わる内容として、「素の姿よりも（衣服や化粧などで）着飾った姿の方が自分の本当の姿だと思う」への回答を求めた。e) 容姿不満：先述のように、美容整形の経験の背景に、コンプレックス解消としてのストーリーが語られることがあることも言及されている。そこで、「外見に自信が無い」「自分の容姿に不満なところがある」「他の人よりも外見的魅力に劣っていると思う」への回答を求め、その平均値を指標として用いた。f) 装い興味：北条（2015）により、美容整形経験者は美意識が高く、おしゃれに対して積極的であることが指摘されている。また、谷本（2008）においても、他の装いにあわせる形で変化させていることが言及されている。そこで、「自分の容姿をよく見せるために努力している」「自分の容姿がどのように見えているか気にしている」「おしゃれをしたり身なりを整えるのが好きだ」への回答を求め、その平均値を指標として用いた。g) 容姿による拒絶感受性（容姿拒絶感受性）：美容整形と醜形恐怖との関連が言及されることがあるが、醜形恐怖と関わる要因として、容姿による拒絶感受性（Park, 2007）があり、その両者の関連が示されている（田中，2015）。容姿拒絶感受性を測定するため、「容姿のせいで魅力的に思われなと思うことがある」「容姿のせいで他者に避けられたと思うことがある」「容姿のせいで

相手にしてもらえなかったと思うことがある」の3項目を準備し、回答を求め、その平均値を指標として用いた。h) 身体感謝：自身の身体についてどの程度好意的に評価し尊重しているか、Tylka & Wood-Barcalow（2015）のBody Appreciation Scale-2の日本語版（生田目・宇野・沢宮，2017）の一部を実施した。「自分の身体を尊重している」「自分の身体に対して愛情を感じる」「自分の身体が心地よい」への回答を求め、その平均値を指標として用いた。

それぞれ、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4件法で回答を求め、1～4点で得点化した。

**実施手続き** 2017年6月から8月に調査会社を介してインターネット調査を実施した。なお、回答者には換金可能なポイントが付与された。

## 結 果

はじめに、経験の有無および興味について整理をおこなった。美容整形の経験で「回答したくない」と回答した255名およびプチ整形の経験で「回答したくない」と回答した249名、および、美容整形とプチ整形の経験が無い者の中で、興味について「回答したくない」と回答したそれぞれ70名と61名を除いたうえで、集計をおこなった。その結果をTable 1に示す<sup>2)</sup>。美容整形の経験がある者の割合は男性で2.5%、女性で2.4%であり、プチ整形の経験がある者の割合は男性で2.9%、女性で4.8%であった。また、男女ともに、若年であるほど経験がある者が多く、また、興味を有している者が多いことが示された。

美容整形とプチ整形ともに、「近々おこなう予定がある」と回答した者が少なかったため、以降は「興味があり、機会があったらおこないたい」とあわせて分析を進めることとした。そして、「興味が無い」と回答した者を「無関心群」、興味はあるが、おこなうつもりは無い」と回答した者は「消極的関心群」、興味があり、機会があったらおこないたい」または「近々おこなう予定がある」と回答した者を「積極的

Table 1 美容医療の経験および興味の実態

		美容整形					計
		経験が無い			近々おこなう 予定がある	経験がある	
		興味が無い	興味はあるが、 おこなうつもり は無い	興味があり、 機会があったら おこないたい			
男性	10代	1104 (77.4)	198 (13.9)	62 (4.3)	1 (0.1)	61 (4.3)	1426 (100.0)
	20代	1228 (73.2)	239 (14.3)	115 (6.9)	11 (0.7)	84 (5.0)	1677 (100.0)
	30代	1381 (78.5)	229 (13.0)	99 (5.6)	3 (0.2)	47 (2.7)	1759 (100.0)
	40代	1494 (84.3)	164 (9.3)	76 (4.3)	1 (0.1)	37 (2.1)	1772 (100.0)
	50代	1575 (88.2)	137 (7.7)	56 (3.1)	0 (0.0)	17 (1.0)	1785 (100.0)
	60代	1615 (91.1)	121 (6.8)	27 (1.5)	0 (0.0)	10 (0.6)	1773 (100.0)
	計	8397 (82.4)	1088 (10.7)	435 (4.3)	16 (0.2)	256 (2.5)	10192 (100.0)
女性	10代	793 (45.1)	636 (36.2)	278 (15.8)	12 (0.7)	40 (2.3)	1759 (100.0)
	20代	782 (43.8)	684 (38.3)	241 (13.5)	4 (0.2)	74 (4.1)	1785 (100.0)
	30代	991 (55.5)	538 (30.1)	210 (11.8)	2 (0.1)	46 (2.6)	1787 (100.0)
	40代	1178 (65.7)	440 (24.6)	144 (8.0)	0 (0.0)	30 (1.7)	1792 (100.0)
	50代	1204 (67.1)	416 (23.2)	140 (7.8)	0 (0.0)	34 (1.9)	1794 (100.0)
	60代	1107 (69.8)	368 (23.2)	81 (5.1)	1 (0.1)	28 (1.8)	1585 (100.0)
	計	6055 (57.7)	3082 (29.3)	1094 (10.4)	19 (0.2)	252 (2.4)	10502 (100.0)
		プチ整形					計
		経験が無い			近々おこなう 予定がある	経験がある	
		興味が無い	興味はあるが、 おこなうつもり は無い	興味があり、 機会があったら おこないたい			
男性	10代	1093 (76.5)	187 (13.1)	70 (4.9)	10 (0.7)	68 (4.8)	1428 (100.0)
	20代	1232 (73.6)	206 (12.3)	126 (7.5)	8 (0.5)	101 (6.0)	1673 (100.0)
	30代	1398 (79.3)	216 (12.3)	92 (5.2)	1 (0.1)	56 (3.2)	1763 (100.0)
	40代	1497 (84.5)	162 (9.1)	76 (4.3)	0 (0.0)	36 (2.0)	1771 (100.0)
	50代	1564 (87.8)	143 (8.0)	55 (3.1)	1 (0.1)	19 (1.1)	1782 (100.0)
	60代	1616 (90.9)	112 (6.3)	34 (1.9)	0 (0.0)	15 (0.8)	1777 (100.0)
	計	8400 (82.4)	1026 (10.1)	453 (4.4)	20 (0.2)	295 (2.9)	10194 (100.0)
女性	10代	733 (41.5)	562 (31.8)	366 (20.7)	23 (1.3)	83 (4.7)	1767 (100.0)
	20代	766 (42.8)	615 (34.4)	263 (14.7)	4 (0.2)	140 (7.8)	1788 (100.0)
	30代	978 (54.6)	474 (26.5)	220 (12.3)	4 (0.2)	114 (6.4)	1790 (100.0)
	40代	1152 (64.3)	387 (21.6)	180 (10.0)	2 (0.1)	71 (4.0)	1792 (100.0)
	50代	1175 (65.5)	392 (21.9)	171 (9.5)	0 (0.0)	55 (3.1)	1793 (100.0)
	60代	1072 (67.6)	364 (23.0)	111 (7.0)	1 (0.1)	37 (2.3)	1585 (100.0)
	計	5876 (55.9)	2794 (26.6)	1311 (12.5)	34 (0.3)	500 (4.8)	10515 (100.0)

注) 括弧内はパーセンテージ。

関心群」、そして、「経験がある」と回答した者を「経験群」とした。これを、興味/経験による分類の群とした。

ここで、以降の分析に進む前に、美容整形またはプチ整形の経験と、他の身体変工の経験の関連について検討した<sup>3)</sup>。経験の有無について相関分析をおこなったところ（Table 2）、美容整形とプチ整形ともに、彫り物またはタトゥーと中度の相関が認められた（ $\phi = .431$ から $.586$ 、 $ps < .001$ ）。ピアスとの間の関連はそれよりも小さいものであった（ $\phi = .172$ と $.208$ 、 $ps < .001$ ）。

Table 2 他の身体変工の経験との関連

	彫り物	タトゥー	ピアス
美容整形	.586 ***	.509 ***	.172 ***
プチ整形	.500 ***	.431 ***	.208 ***

注) 値は $\phi$ 係数。

\*\*\* $p < .001$ 。

#### 美容整形およびプチ整形の興味/経験と受容推測

との関連について検討した（Table 3）<sup>4)</sup>。興味/経験を独立変数、受容推測を従属変数とした分散分析および多重比較をおこなった。美容整形については、 $F(3, 4763) = 162.94$ 、 $p < .001$ であり、多重比較（ボンフェローニ法）の結果、無関心群よりも消極的関心群が、消極的関心群よりも積極的関心群および経験群が0.1%水準で有意に高値であることが示された。プチ整形については、 $F(3, 4766) = 213.91$ 、 $p < .001$ であり、多重比較（ボンフェローニ法）の結果、無関心群よりも消極的関心群が、消極的関心群よりも積極的関心群および経験群が0.1%水準で有意に高値であることが示された。

美容整形およびプチ整形の興味/経験とイメージの関連について検討した（Table 4）。美容整形については、積極的関心群のみ、「ゼロからプラスへ」が半数を超えていたが、他の群は「マイナスからゼロへ」を選択した者の割合が大きいことが示された。

Table 3 興味/経験の各群における受容推測

	美容整形			
	無関心群	消極的関心群	積極的関心群	経験群
<i>M</i>	1.72	2.10	2.53	2.47
<i>SD</i>	0.75	0.73	0.81	0.93
<i>N</i>	3498	902	271	96
	プチ整形			
	無関心群	消極的関心群	積極的関心群	経験群
<i>M</i>	1.96	2.44	2.84	2.78
<i>SD</i>	0.85	0.76	0.73	0.85
<i>N</i>	3384	863	371	152

Table 4 興味/経験の各群におけるイメージ

	美容整形				
	無関心群	消極的関心群	積極的関心群	経験群	計
マイナスからゼロ（人並み）へ	2310 (67.9)	535 (55.1)	140 (46.5)	50 (59.5)	3035 (63.8)
ゼロ（人並み）からプラスへ	1091 (32.1)	436 (44.9)	161 (53.5)	34 (40.5)	1722 (36.2)
計	3401 (100.0)	971 (100.0)	301 (100.0)	84 (100.0)	4757 (100.0)
	プチ整形				
	無関心群	消極的関心群	積極的関心群	経験群	計
マイナスからゼロ（人並み）へ	1904 (57.3)	356 (40.0)	122 (29.8)	60 (42.0)	2442 (51.2)
ゼロ（人並み）からプラスへ	1420 (42.7)	534 (60.0)	288 (70.2)	83 (58.0)	2325 (48.8)
計	3324 (100.0)	890 (100.0)	410 (100.0)	143 (100.0)	4767 (100.0)

注) 括弧内はパーセンテージ。

プチ整形については、無関心群のみ「マイナスからゼロへ」が半数を超えていたが、他の群は、「ゼロからプラスへ」を選択する者の割合が大きいことが示された。また、美容整形よりもプチ整形の方が、「ゼロからプラスへ」を選択する者の割合が多い傾向が認められた<sup>5)</sup>。

美容整形およびプチ整形の興味/経験と他者経験推測との関連について検討した (Table 5)。なお、「6～10人」「11～20人」「21人以上」については、「6人以上」にまとめた。美容整形およびプチ整形ともに、関心が高いほど、また、経験があるほど、他者経験推測の値が大きいことが示された。順位相関係数を算出したところ、美容整形で  $\rho = .303$  ( $p < .001$ )、プチ整形で  $\rho = .401$  ( $p < .001$ ) であった。

美容整形およびプチ整形の興味/経験と心理的特徴との関連について検討した (Table 6)。興味/経験を独立変数、それぞれの心理的特徴を従属変数とした分散分析および多重比較をおこなった。その結果を Table 6 にあわせて示す。すべての心理的特徴について分散分析の結果は有意であった。また、多重比較の結果、それぞれの心理的特徴において、条件間の特有の差のパターンが認められた。

## 考 察

本研究は、美容医療の経験や興味の実態を明らかにするとともに、そこに関わる態度、イメージ、そし

て心理的特徴などについて明らかにすることを目的とした。

まず、興味/経験の実態について検討した。全体的に、美容整形とプチ整形ともに、若いほど経験がある者や興味を有する者の割合が多いことが示された。また、美容整形については経験者の割合の男女差は顕著では無かったが、興味についてはより女性が有する傾向が認められた。プチ整形においては、経験者の割合が多く、興味について女性の方がより有する傾向が認められた。経験者の割合としては、男性は美容整形とプチ整形で違いが認められなかったが、女性はプチ整形の方が多くことが示された。

経験割合としては、谷本 (2008、2012、2014) の値と近いものであり、ポーラ文化研究所 (2012) によるものよりも値は小さい。これは、実施方法の違いが影響している可能性も考えられる。ポーラ文化研究所 (2012) の調査では、首都圏居住者のみを対象としており、調査対象者の居住地域が限定されている。さらに、調査はweb上で実施されているが、実施時にどのようなアナウンスがおこなわれたかは不明である。もし、配信用メールに含まれたアンケートのタイトルに「美容」などの言葉が含まれていた場合、この単語に興味や関心を有する者が積極的に調査に参加し回答した可能性も考えられる<sup>6)</sup>。少なくとも、今回の調査においては、アンケート配信時点では、美容に関わる文言は入れていないため、こ

Table 5 興味/経験の各群における他者経験推測

	美容整形									
	無関心群		消極的関心群		積極的関心群		経験群		合計	
0人	3240	(95.0)	828	(84.7)	187	(66.3)	22	(25.6)	4277	(90.0)
1～5人	156	(4.6)	137	(14.0)	83	(29.4)	47	(54.7)	423	(8.9)
6人以上	13	(0.4)	12	(1.2)	12	(4.3)	17	(19.8)	54	(1.1)
計	3409	(100.0)	977	(100.0)	282	(100.0)	86	(100.0)	4754	(100.0)
	プチ整形									
	無関心群		消極的関心群		積極的関心群		経験群		合計	
0人	2970	(89.7)	600	(66.6)	208	(51.6)	29	(19.5)	3807	(79.9)
1～5人	328	(9.9)	279	(31.0)	173	(42.9)	84	(56.4)	864	(18.1)
6人以上	12	(0.4)	22	(2.4)	22	(5.5)	36	(24.2)	92	(1.9)
計	3310	(100.0)	901	(100.0)	403	(100.0)	149	(100.0)	4763	(100.0)

注) 括弧内はパーセンテージ。



Table 6 興味/経験の各群における心理的特徴

	美容整形								F(3, 4696)	多重比較
	無関心群		消極的関心群		積極的関心群		経験群			
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
自己の満足度	2.38	0.75	2.32	0.68	2.21	0.77	2.46	0.80	6.866	c<a d
賞賛獲得欲求	2.44	0.70	2.63	0.68	2.65	0.78	2.56	0.79	25.138	a<b c
拒否回避欲求	2.01	0.70	2.11	0.67	2.16	0.76	2.33	0.79	16.215	a<b c d, b<d
外見評価（自己）	1.95	0.84	2.02	0.87	2.11	0.96	2.38	0.97	15.936	a<c<d, b<d
外見評価（他者）	2.05	0.89	2.27	0.89	2.29	0.94	2.46	0.94	26.537	a<b c d
本当の姿観	1.86	0.81	2.10	0.83	2.25	0.92	2.30	0.98	47.800	a<b<c d
容姿不満	2.80	0.77	2.99	0.73	3.06	0.77	2.64	0.86	28.695	a d<b c
装い興味	2.40	0.70	2.84	0.64	2.91	0.76	2.66	0.76	138.573	a<b, c<d
容姿拒絶感受性	2.19	0.75	2.32	0.76	2.54	0.83	2.47	0.77	31.542	a<b c d, b<c
身体感謝	2.46	0.73	2.41	0.72	2.24	0.77	2.40	0.78	10.299	c<a b

  

	プチ整形								F(3, 4704)	多重比較
	無関心群		消極的関心群		積極的関心群		経験群			
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
自己の満足度	2.37	0.75	2.33	0.68	2.24	0.78	2.39	0.75	4.565	c<a
賞賛獲得欲求	2.44	0.70	2.63	0.67	2.64	0.79	2.58	0.74	25.127	a<b c d
拒否回避欲求	2.02	0.70	2.11	0.68	2.13	0.75	2.28	0.75	14.415	a<b c d, b<d
外見評価（自己）	1.94	0.84	2.03	0.86	2.06	0.95	2.37	0.93	19.151	a b c<d
外見評価（他者）	2.06	0.89	2.25	0.88	2.28	0.96	2.44	0.94	24.096	a<b c d, b<d
本当の姿観	1.86	0.81	2.09	0.83	2.23	0.94	2.36	0.90	54.758	a<b<c d
容姿不満	2.80	0.77	2.99	0.74	3.11	0.75	2.74	0.82	31.048	a d<b<c
装い興味	2.40	0.70	2.80	0.64	2.95	0.73	2.82	0.72	142.356	a<b c d, b<c
容姿拒絶感受性	2.19	0.75	2.33	0.75	2.52	0.82	2.37	0.76	27.033	a<b c d, b<c
身体感謝	2.45	0.73	2.43	0.71	2.23	0.75	2.44	0.78	10.714	c<a b d

注) a: 無関心群, b: 消極的関心群, c: 積極的関心群, d: 経験群

の時点での回答者の偏りは防ぐことができたといえる。今回の値は、そのような条件で得られた回答の値として解釈していくことが妥当である。

美容整形またはプチ整形の経験と、他の身体変工の経験の関連について検討したところ、両者に関連が認められた。つまり、美容医療をおこなう者は、他の身体変工もおこなうということであり、自身の身体を複数の方法で装飾しているということが読み取れる。身体を直接加工する装いを組み合わせることにより、より自身を理想の姿に近づけようとしているのかもしれない。一般的な装いにおいても、ある装いが他の装いの前提になっていることが指摘されている（鈴木, 2017）。また、美容医療においても、

他の装いの延長として位置づけられ、同時に、他の装いの前提になっていたり、他の装いにあわせる形でおこなわれている可能性も言及されている（北条, 2015; 谷本, 2008）。今回の結果は、美容医療が他の装いを促進していること、もしくは他の装いに促進されていることを示唆したといえる。

なお、美容整形とプチ整形ともに、彫り物またはタトゥーと中度の相関が認められたが、ピアスとの間の関連はそれよりも小さかった。彫り物とタトゥーは、元に戻せない装いであるが、ピアスは身体に直接つけるものとはいえ、外したりまたは取り替えたりと、永続性は無い。この違いが、関連の強さの差異に影響を及ぼした可能性がある。



美容整形およびプチ整形の興味/経験と受容推測との関連について検討したところ、積極的に興味を有していたり、経験している場合に、より受容されていると考えていることが示された。受容されていると考えているからこそ経験に至るといえる。社会における一種の規範の認識が、その装いをおこなうかどうかに影響していることが示唆されたといえる。社会とのすりあわせのうえで装いが選択されていることの1つの証左ともなる。

美容整形およびプチ整形の興味/経験とイメージの関連について検討したところ、興味/経験の群間によって多少の差異はあるものの、全体的には、美容整形は「マイナスからゼロへ」、プチ整形は「ゼロからプラスへ」を選択する者の割合が多かった。従来、美容整形の免罪符としてコンプレックス解消が理由とされていることも言及されていたが(川添, 2013)、現在はそこから脱却しているという説もある(谷本, 2008)。少なくとも、プチ整形については、コンプレックス解消というよりも、積極的な理想の身体の構築が意図されていることが示唆されたといえる。美容整形については、無関心群だけでなく経験群においても、人並みになるためのものとして認識されており、経験がある本人にコンプレックス解消のための手段と認識されていることが示された。とはいえ、「ゼロからプラスへ」を選択した者は施術群でも4割ほどおり、美容整形が、積極的な意味でより自分を肯定的な状態に持っていくための手段としても捉えられていることが示唆されたといえる。

美容整形およびプチ整形の興味/経験と他者経験推測との関連について検討したところ、美容整形およびプチ整形ともに、関心が高いほど、また、経験があるほど、他者推測経験の値が大きいことが示された。周囲の人が経験したことを聞くことにより刺激を受けて本人が施術を受けた可能性、逆に、施術を受けた後に周囲の人にその話をすることによって周囲が影響を受けた可能性の両者が考えられる。少なくとも、美容医療も、他の装いと同様に他者の影響が存在することが確認されたといえる。谷本

(2017)も述べているように、同性友人や女性の家族といった周りの人とのコミュニケーションが重要な位置づけを有していることが推察される。これは、美容医療が、社会にあわせる形で自己を作り上げていくための手段の1つであることも示唆しているといえる。

美容整形およびプチ整形の興味/経験と心理的特徴との関連について検討したところ、興味深い知見が得られた。なお、美容整形とプチ整形ともに、ある程度類似した傾向が認められた。以下、概要とともに考察をおこなう。

まず、美容医療に興味が無い者は、外見についての評価が低いが、不満も特に有しておらず、自身の外見や他者からの評価について興味や関心が低い傾向が認められた。つまり、受容か諦めかは不明であるが、少なくとも容姿という自己の側面を特段重要視せず、他者からの評価も気にせず、容姿を装いにより積極的に作り上げていくという考えが相対的に少ない者といえる。

そして、美容医療に興味を有している者は、他者からの評価や容姿を気にしていること、また、外見についての評価が比較的高く、装いに積極的であり、着飾った姿の方が自分の本当の姿だと思っていることが示された。しかし同時に、容姿に不満をもっていることも示された。特に、積極的に興味を有している場合は、自己そのものに満足しておらず、また、自分の身体に感謝していないことも示された。つまり、外見に興味があり装った姿が本当の自分であると思っていることから、より肯定的な状態になるように手段を講じているものの、現状に不満を持っており、そして、その不満を解消するために美容整形という手段でその打破を期待しているという様子が見えがえる。

一方、経験群は、興味を有している群と同様に、他者からの評価や容姿を気にし、外見についての評価が高く、装いに積極的であるが、さらに、容姿への不満が低く、精神的に健康であることが示されている。つまり、施術後の自分に満足していることが

推察される。美容医療の経験を経て、自己の姿が本来の自己と認識している状態に変化することによって、自分に満足したものと考えられる。

これらのことから、外見への不満、そして、装った姿こそが本当の姿である（北条, 2015; 谷本, 2008）という考えが、美容医療を受けることを推し進め、施術を経験することによって、自己に満足し、新しい姿が自己像として定着していくプロセスが想定される。能動的に自己を装いにより変化させることによって、自己の状態をより良い状態へと適応させていることも推察される。このことから、美容医療の肯定的側面の存在が確認されたともいえよう。ただし、谷本（2008）や北条（2015）により、美容医療経験者は欲望が加速し、リピーターになりうるということが指摘されている。美容医療への依存などの問題が生じることも考えられる。どのように自己の身体の加工を管理し、また現状を受け止めていくかが重要といえる。

美容医療を受けた人における心的プロセスにはどのような要因が存在し、影響し合っているのか、その点については今後、美容医療の経験者を対象に検討を進めていくことが重要であろう。美容医療が、どのような装いのツールとして位置づけられ、どのように用いられているのか、そしてそれが社会とどのように影響しあうのか、装いの一つと位置づけた上で明らかにしていくことが、その背景にある心理プロセスの理解に有用といえる。少なくとも、今回の調査により、美容医療という装いを、人々がこの社会の中でどのように受け止め、場合によっては採用し、社会に臨んでいるのか、その一端を明らかにすることができたといえる。

なお、美容医療の経験者がある程度の割合で存在し、そして、身近なものとなってきているのと同時に、そのトラブルについて、看過できない状況になってきている<sup>7)</sup>。東京都消費生活総合センター（2016）によると、全国消費生活情報ネットワークシステム（PIO-NET）に寄せられた情報のうち、危害に関する相談における危害の原因となった商品・役務別の

集計では、美容医療がここ数年間は上位1位から2位の間を推移している。利用者の側が十分な知識を得ること、また、利用者が十分な情報を得ることができるようになることが、美容医療が広まっている現状において、重要なことといえる。

## 引用文献

- Henderson-king, D., & Henderson-King, E. (2005). Acceptance of cosmetic surgery: Scale development and validation. *Body Image*, 2, 137-149.
- 北条かや (2015). 整形した女は幸せになっているのか 講談社
- ISAPS (2017). ISAPS Global Statistics <http://www.isaps.org/Media/Default/Current%20News/GlobalStatistics2016.pdf> (2017年8月30日)
- 小島弥生・太田恵子・菅原健介 (2003). 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度作成の試み 性格心理学研究, 11, 86-98.
- 生田目光・宇野カオリ・沢宮容子 (2017). ポジティブボディイメージを測定するBAS-2の日本語版作成 心理学研究, 88, 358-365.
- 川添裕子 (2013). 美容整形と〈普通のわたし〉 青弓社
- Park, L. E. (2007). Appearance based Rejection Sensitivity: Implications for mental and physical health, affect, and motivation. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 33, 490-504.
- ポーラ文化研究所 (2012). 女性の化粧行動・意識に関する実態調査2012美容篇
- 菅原健介 (1986). 賞賛されたい欲求と拒否されたくない欲求——公的自意識の強い人に見られる2つの欲求について—— 心理学研究, 57, 134-140.
- 鈴木公啓 (2006). 装いと賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との関連 パーソナリティ研究, 14, 230-231.
- 鈴木公啓 (2012). 瘦身願望および瘦身希求行動の規定要因——印象管理の観点から—— 心理学研究, 83, 391-399.
- 鈴木公啓 (2017). 痩せという身体の装い ナカニシヤ出版
- 鈴木公啓・矢澤美香子 (2016). 成人日本人女性における装い起因障害の実態 フレグランスジャーナル, 44, 72-79.
- 高嶋英弘 (2017). 美容医療サービスの法的特徴と問題点

[http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201703\\_02.pdf](http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201703_02.pdf)  
(2017年8月30日)

- 田中勝則 (2015). 容姿に起因する拒絶過敏性と身体醜形懸念の関連 日本心理学会第79回大会発表論文集
- 谷本奈穂 (2008). 美容整形と化粧の社会学 新曜社
- 谷本奈穂 (2012). 美容整形・美容医療を望む人々——自分・他者・社会との関連から—— 関西大学総合情報学部紀要「情報研究」, 37, 37-59.
- 谷本奈穂 (2014). 社会学からひもとく美容整形と美容医療 独立行政法人国民生活センター「国民生活」, 1-5.
- 谷本奈穂 (2017). 美容整形というコミュニケーション——外見に関わり合う女性同士—— フォーラム現代社会学, 16, 1-12.
- 東京都消費生活総合センター (2016). 平成27年度消費生活相談概要(資料編) 東京都消費生活総合センター <https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/sodan/tokei/documents/160606-2.pdf> (2017年9月12日)
- Tylka, T. L., & Wood-Barcalow, N. L. (2015). The body appreciation scale-2: Item refinement and psychometric evaluation. *Body Image*, 12, 53-67.

## 注

- 1) 株式会社クロス・マーケティングが2010年におこなった調査があるとされ、その結果についてweb上などで言及されることもある。しかし、当該資料については、なんらかの理由により、現在は公開が取りやめられている。そのため、引用文献として掲載することは控えることとする。
- 2) 美容整形とプチ整形の両方を経験した者は344名(1.66%)であった。また、少なくともどちらか一方を経験した者は959名(4.62%)であった。
- 3) 彫り物の経験割合は1.96%、タトゥーの経験割合は2.73%、ピアスの経験割合は25.60%であった。
- 4) 彫り物、タトゥー、ピアスのそれぞれについて

も、経験の有無による受容推測の違いについて、平均値の差の検定により検討した。彫り物については、経験無し群 ( $M=1.41, SD=0.64, N=4708$ ) と経験有り群 ( $M=2.40, SD=1.04, N=70$ ) に有意差が確認された ( $t=7.94, p<.001$ )。タトゥーについては、経験無し群 ( $M=1.52, SD=0.70, N=4678$ ) と経験有り群 ( $M=2.35, SD=1.00, N=102$ ) に有意差が確認された ( $t=8.38, p<.001$ )。ピアスについては、経験無し群 ( $M=2.84, SD=1.02, N=3613$ ) と経験有り群 ( $M=3.62, SD=0.64, N=1168$ ) に有意差が確認された ( $t=30.99, p<.001$ )。このように、美容医療と同様に、経験している方が受容されていると推測していることが確認された。なお、美容整形、プチ整形、彫り物、タトゥーは、受容の推測の程度が類似していた。そして、ピアスは、それらよりも受容されているという推測がなされていた。

- 5) 合計の値とその割合については、そもそも無関心群の人数が他群に比し極めて多いために、この群の度数に引きずられたものとなる。そのため、合計についての積極的な解釈はおこなわないように注意が必要といえる。
- 6) もちろん、ニュートラルなタイトルのアナウンスにしても、回答を始めてから興味や関心が無い場合は途中で脱落することもあるので、その偏りを完全になくすことは難しい。しかし、回答前にすでに偏りが生じている場合の影響の方が大きいと考えられる。
- 7) 成人を対象に様々な装いによるトラブルについて調査をおこなった鈴木・矢澤 (2016) においては、美容医療経験者の10%に、トラブルの経験があることが報告されている。ただし、経験者そのものの数が少ないため ( $N=10$ )、一般化には注意が必要である。

(すずき ともひろ)

【受理日 2017年10月25日】